

コロナに 負けない。

特定非営利活動法人 あっとすくーる
認定NPO法人 ノーベル
特定非営利活動法人 西淀川子どもセンター
特定非営利活動法人 日本こども支援協会
社会福祉法人 大阪ボランティア協会
認定特定非営利活動法人 大阪NPOセンター
リタワークス株式会社

「大阪商工信金社会貢献賞」全受賞団体紹介

頑張る
NPO
応援号

新型コロナウイルスに感染された方や
そのご家族の皆さまに心からお見舞い申し上げます。
また、このような厳しい状況下でも、最前線の現場で
活動しておられる皆さまには、心から敬意と感謝を表します。
活動をとめることなく、今だからこそ必要な支援を、
工夫を凝らしながら提供し続ける団体の皆さまを
心から誇りに思い、志を同じくする地域金融機関として、
この危機を地域の皆さまに常に寄り添い、
共に乗り越えたいと考えています。

本店ビル「糸車の幻想」にて「大阪モデル」の到達レベルを周知するライトアップを実施。



大阪商工信用金庫



特定非営利活動法人

あっと
すくーる

コロナで苦しむひとり親家庭を救えます。 子どもたちの「学び」と「つながり」を支援してもらえませんか？

代表の渡さん自身が母子家庭で育った経験があり、「自分と同じ境遇のひとり親家庭の子どものために」という思いから当団体を設立し、学習支援事業「渡塾」の運営を通して、ひとり親家庭の子どもでも通えるような授業料減額制度や、寄付による給付型奨学金制度を設け、子どもたちの「十分な学習機会の確保」をサポートしています。

ひとり親家庭の子どもたちには家庭環境や学校生活など様々な背景があることから、あっとすくーるでは学校の先生やスクールソーシャルワーカーなど関係者の方々と連携し、子どもたちの日々に寄り添った支援を行っています。

そんな「渡塾」だからこそ、子どもたちが「第2の家」と呼ぶ居心地の良い居場所となっています。

緊急事態宣言の発令に伴い、対面授業からオンライン授業へ切り替える他、子どもたちがオンライン上いつでも繋がれるように講師を待機させ、「第2の家」の存在を維持しながら活動を続けておられます。オンライン授業にしたことで、逆にコロナの影響で時間ができた全国の大学生からボランティアの希望が殺到するという予想外の出来事もありました。しかし、親御さんから「申し訳ないのですが、しばらく休塾にさせていただけないでしょうか？今回のコロナで収入が大幅に減ってしまって…」という悲痛の声が今届いており、普段からぎりぎりの生活を営むひとり親家庭のみなさんが、より困難な状況に追い込まれています。

月謝が払えなくなり、あっとすくーるとのつながりが絶たれようとする家庭が約33家庭と急増していますが、ご寄付さえ集まれば、経済的な負担がなく、子どもたちとつながり続ける事が実現できます。

「渡塾」で育った子どもたちが、大学生になってボランティア講師として塾に携わってくれるのは本当に嬉しいことであり、当事者だから理解でき、子どもたちに寄り添える、このような循環を作りたい。お金の問題だけで、学習機会が無くなるということは悲しく、どうしても避けたい。これ以上「格差」が生まれない社会にするため、貧困の連鎖を希望の連鎖に変えるために、子どもの貧困問題を是正するために仲間になってくださる皆さんと一緒に歩んでいけたら嬉しいです。

活動内容や寄付の方法は右のQRコードからHPをご覧ください。



休校中の子どもたちの居場所づくりを！ 自宅訪問、食料品配布、手紙、「宿題がんばルーム」。

ひとり親家庭など様々な事情で、夜間を子どもたちだけで過ごしがちな子どもが、地域の中で安心できる居場所づくりを目的に、食生活の習慣、学習意欲、学校や友人関係の相談もできる場を目指し、夜間サテライト事業「いっしょにごはん！ 食べナイト？」を実施しています。

ところが新型コロナウイルスの影響で、西淀川子どもセンターの活動も通常運転とはいかないのが現状です。子どもたちが20人ほど集まり食事を共にする夜間サテライト事業は中止し、休校により給食がなくなったことへの影響や自宅学習の状況などが心配されたことから、ご寄付でいただいたお菓子や食料品の配布を兼ねて自宅訪問を実施しました。おてらおやつクラブや和歌山県の農家さん、地元企業や個人から寄せられたたくさんの食料の中には、学生時代に西淀川子どもセンターに通っていたOBからの支援も。また、例年子どもたちと一緒にに行っていた個人農園での「いちご狩り」に、今年はスタッフが子どもたちに代わって沢山獲ってきて、収穫物を届けました。

この期間中にスタッフから子どもたちに宛てた手紙とアンケートを送付しました。SNS世代の子どもたちにとって、手書きの手紙を受け取り、返事を送り返すという体験はとてもウケたようで、アンケートにはイラスト付きで自粛中の過ごし方などを書いてくれました。訪問を通じて、自宅学習や宿題で困っていること、ダブルワークを抱える保護者が夜遅くまで働き一人自宅で過ごす時間が長いことや、一方で保護者の仕事が休みになり一緒に過ごせる時間ができて喜んでいることや、長く休みすぎて学校が始まるのが不安なことなど、いろいろ状況や心境がわかってきました。そこで、「宿題がんばルーム」を新たに開始し、宿題を持ち寄りつつ、子どもたちが気持ちを言えたり息抜きできる場を、少人数制で工夫しながら作っています。夜間サテライト事業の通常再開の時期を検討しながら、その間も大人たちが地域の子どもたちを丁寧に見守る活動を、工夫を凝らしながら継続しています。

支援とまではいなくても、地域の大人として子どもたちを見守り、こんな時だからこそ気軽に声をかけ合える地域を作っていけるのではないのでしょうか。それは、今回のような緊急時だけでなく、子どもたちが安心・安全に暮らせる日常をつくるよい機会となるはずです。活動内容など詳しくはHPをご覧ください。（「西淀川子どもセンター」で検索）



特定非営利活動法人
**西淀川
子ども
センター**



子どもが病気になっても、 休園・休校になっても、休めない！

認定
NPO法人
ノーベル

新型コロナウイルス感染拡大から、「緊急事態宣言」の発令後、解除後においても、「保育は社会のインフラ」であり続けるため、また「NPOとしての社会的ミッション」を果たすため、どうすれば訪問型病児保育と一時保育室の事業が継続できるのか決断の毎日だったと言います。その決断の基準は、お子さんの命を守ること。スタッフの命を守ること。でありました。

保育スタッフにアンケートを実施したところ、感染への不安はあるものの保育を辞退する人はいなかったそうです。だったら、感染予防を最大限配慮したうえで、病児保育・一時保育を、医療従事者や社会の機能を維持するために必要な仕事に就業されている方やひとり親家庭などで仕事を休むことが経済的に困難な方を優先的にサポートしながら継続し、又、休園・休校保育(元気なお子さんのお預かり)についても前日予約の体制を整えました。実際、どうしても仕事を休めない方からの依頼が日に数件あり、また新型コロナウイルス感染拡大を機に企業内で在宅ワークが普及したものの、小さな子どもがいる家庭では在宅ワークには苦勞することから、その場合のお預かりも行われました(保護者が出勤する様子子どもに見せ、こっそり自宅に戻って在宅ワークを行う工夫をしながら)。

さらにノーベルでは、働く保護者を支えるために緊急事態宣言が出されても現場で頑張っている保育従事者がたくさんおり、マスクが不足するという危機を救うため保育現場に敬意を表しエールを送る気持ちも込めて「洗えるマスク」を届けるプロジェクトを企画。クラウドファンディングで支援者を集め、感染拡大が大きい10都道府県の8000施設に無償でマスクを届けています。

仕事と育児を両立するためにも、緊急事態のさなかで社会の機能を維持するためにも、本人や企業の努力だけではまもなくならず、地域みんなが連携しあって保育を社会インフラとして支える社会が必要です。ノーベルは、今、できることを丁寧かつスピード感を持って取り組みながら、10年後のビジョンとして、みんなで子育てするから両立できる社会を目指しています。(詳しくは「NPO法人ノーベル」で検索)

里親としての“子育て”は、
愛おいしいけど、超しんどい。
でも、全国に仲間がいるから、頑張れる。

特定非営利活動法人
日本子ども
支援協会



1月まで実施していたクラウドファンディングにより「ONELOVE里親コミュニティサイト」を稼働し、現在400人を超える会員に向けた「オンライン里親サロン」や投稿による交流を行っている日本子ども支援協会。

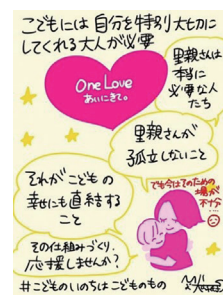
代表の岩朝さんは、新型コロナウイルスによる外出自粛が続き、閉塞感を否めないこのタイミングでオープンできたことは奇跡的なことだったと話されます。

利用者さんからは「里親になってまだ間もない中、コロナの影響で外出禁止となり誰にも頼れずギブアップしようと思っていた矢先、このサイトで繋がれて続けていこうと思えました。ONELOVE里親コミュニティサイトを作ってくださいって本当にありがとうございます！」との声が寄せられており、まだスタートラインに立ったばかりではありますが、ONELOVEの意義を感じているとのこと。

里親家庭だけでなく、休校や外出自粛、失業などの影響により子どもの虐待やDVが増加しており、一般家庭内にも多くの影を落としています。今は非常事態です。育児疲れや経済的な理由等により一時的に養育を託すことができる制度があります。面会もできますし、里親家族は親御さんに寄り添ってくれます。家庭で問題を抱え込まず、子どものため、自身のため、明るい未来のためとなる選択があると発信を続けておられます。

ところが、今、日本子ども支援協会の運営が厳しい状況です。子どもの貧困や虐待という切迫した問題を根本的に解決するため、“運営を維持するための事業”は行わず、寄付や助成金を財源にすべての時間を子どもと養育者へのサポートに費やしてきました。そのための大事な財源である寄付収入がコロナの影響により急激に落ち込んでいます。政府の制度には要件が合わず、大規模なチャリティイベントの実施目途が立たない状況です。しかし、今こそニーズが高まっている全国初の里親コミュニティサイトと団体を維持するための支援が必要とされています。「子どもの貧困と暴力の連鎖」を永続的に解決する使命を共に担い、「里親をみんなが支える社会」を一緒につくりませんか。

日本子ども支援協会への3つの寄付方法は、団体ホームページをご覧ください。



(イラスト: 犬山紙子さん寄贈)



社会福祉法人
**大阪
ボランティア
協会**



政府の「緊急事態宣言」の発表後、当協会では市民活動、NPO活動を応援する立場から市民活動の行動原則をまとめ、緊急声明として公表しました。宣言以降、市民活動団体は、移動・外出の制限、活動拠点の閉鎖、資金不足、職員やボランティアが思うように集まらないなど、活動の危機にさらされています。一方、これまで市民の力で支えてきた社会的な孤立状態に置かれやすい人々の課題が悪化、深刻化することが予想され、新たなニーズも生まれています。

今こそ市民の「参加」の力を信じ、長期化が予想される未曾有の事態を、だれひとり取り残すことなく乗り越えてゆくには、市民の力、ボランティアの役割はこれまで以上に、また違った形で必要とされるはずと考え、今だからこそできる「支えあい」を共に生み出しておられます。また、「新型コロナウイルス感染症NPO緊急支援サイト」を立ち上げ、あなたが「今すぐ」できるアクションを呼びかけ、他の支援団体と共に「私と地域と世界のファンド:みんなおなじ空の下」において、寄付を募り、コロナ禍で困っている人を支える団体を応援しています。詳細はホームページをご覧ください。

「緊急事態宣言」発表後まもなく、市民活動団体を対象とした「新型コロナウイルス感染症が市民活動に及ぼす影響に関する調査」を行いました。1つはセンター会員を対象とした調査、そして大阪、京都、兵庫の中間支援団体と協力した広域の市民活動団体を対象とした調査を実施しました。

それらによると調査対象とした市民活動団体の運営への影響が相当あること、また、これらの団体が提供するサービスの受給者にもその影響が及んでいることも推察されました。

その結果を受けて、センターでは助成金に関する情報提供や個別相談、支援対応を行っておられます。補助金・助成金や融資による緊急対応は徐々にメニュー化されているものの、受け手の団体が申請書作成等に手が回らず諦めている場合も多く、実務支援の重要性を感じ、丁寧に伴走されています。ポストコロナやアフターコロナを見据えたソーシャルビジネスへの資金供給も大きなカギとなることから、当金庫をはじめ金融機関とも連携を高め、中長期的な視野を持ち当事者側に立った支援を検討されておられます。



認定特定非営利
活動法人

**大阪NPO
センター**



Tomorrow gets better

あらゆるソーシャルビジネスに挑戦し「あしたがよくなる」を実感できる社会を作る

**リタ
ワークス
株式会社**

「利他の想いと行動で世界をより良くする」を理念に、IT・WEBを活用したNPO支援を行う当社は、NPOのためのファンドレイジングツール「コングラント」でいち早く新型コロナウイルス感染症に影響を受けた社会的組織への緊急支援制度を整えました。活動資金の補填や活動継続のためのクラウドファンディングを無料で提供し、集まった寄付金はプロジェクト終了3営業日以内の早期入金を実施するなどNPO等を資金面で支えました。

また、大阪ボランティア協会などと共に市民による新しい助け合いと支援先の選択肢を提示する仕組みとして、「私と地域と世界のファンド:みんなおなじ空の下」を立ち上げました。

新型コロナウイルス感染症の危機を乗り越え、「私」「地域」「世界」をつなぎ、最も影響を受け支援を必要とする人や地域と一緒に進んでいくための、大阪・関西発の基金です。市民による市民のためのファンドとして、行政などの支援だけでは手の届きにくい小回りのきく地道な活動にフォーカスし「新型コロナウイルス感染症をともに乗り越え、ともに未来をつくる」という市民の思いを形にされました。



コロナに負けずに頑張る団体を、 大阪商工信用金庫は応援しています。

『大阪商工信金社会貢献賞』『さくら賞』受賞団体

第1回（2007年）

- ・社会福祉法人 大阪児童福祉事業協会
アフターケア事業部
- ・社会福祉法人 素王会アトリエインカーブ
- ・特定非営利活動法人
おおさか行動する障害者応援センター
- ・特定非営利活動法人 高齢者外出介助の会
- ・Freedom

第2回（2008年）

- ・コリアボランティア協会
- ・特定非営利活動法人 てんやく絵本ふれあい文庫
- ・特定非営利活動法人 エフ・エー
- ・特定非営利活動法人
大阪市難聴者・中途失聴者協会
- ・特定非営利活動法人 プール・ボランティア

第3回（2009年）

- ・特定非営利活動法人
在日コリアン高齢者支援センターサンボラム
- ・特定非営利活動法人 ヘレンケラー自立支援センター
- ・育児サークル「アンファン広場」
- ・特定非営利活動法人 精神障害者支援の会 ヒット
- ・特定非営利活動法人 チャイルズ

第4回（2010年）

【1部 団体の部】

- ・特定非営利活動法人 関西子ども文化協会
- ・特定非営利活動法人 DDAC 発達障害をもつ大人の会
- ・特定非営利活動法人 住まいみまもりたい
- ・特定非営利活動法人 ユートピアにし

【2部 プロジェクトの部】

- ・ジェネシスオブエンターテイメント
- ・特定非営利活動法人 まんぼう

『さくら賞』（第1回）

- ・特定非営利活動法人 チャイルド・ケモ・ハウス

第5回（2011年）

【1部 団体の部】

- ・特定非営利活動法人 大阪精神医療人権センター
- ・特定非営利活動法人 ハートフレンド
- ・公益社団法人 子ども情報研究センター
- ・特定非営利活動法人 大阪脳損傷者サポートセンター
- ・NPO法人Cafe MILLO

【2部 プロジェクトの部】

- ・特定非営利活動法人 ふれあいネットひらかた
- ・特定非営利活動法人 こえとことばとこころの部屋

『さくら賞』（第2回）

- ・大阪市福祉教育語りの会

第6回（2012年）

【1部 団体の部】

- ・NPO法人 視覚障害者支援の会クローバー
- ・特定非営利活動法人
介護保険市民オンブズマン機構大阪
- ・特定非営利活動法人 チャイルド・ケモ・ハウス
- ・特定非営利活動法人 広報写真ボランティア
- ・豊中市安心生活創造事業
ひとり暮らし応援事業者ネットワーク

【2部 プロジェクトの部】

- ・特定非営利活動法人
Japan Hair Donation & Charity
- ・有限会社officelぱれっと

『さくら賞』（第3回）

- ・NPO法人 ニッポンバラタナゴ高安研究会

第7回（2013年）

【1部 団体の部】

- ・特定非営利活動法人 フォロ
- ・NPO法人 おおさかこども多文化センター
- ・NPO法人 子育てネットくるみの会
- ・千里新田地区まちづくり協議会
- ・Children's Views & Voices(CVV)
- ・NPO法人 日本クリニクラウン協会

【2部 プロジェクトの部】

- ・ネクストステージ大阪有限責任事業組合
- ・NPO法人 発達障害児支援LOF教育センター
- ・特定非営利活動法人 ハニー・ビー

『さくら賞』（第4回）

- ・特定非営利活動法人 サンフェイス

第8回（2014年）

【1部 団体の部】

- ・一般社団法人 ふせ支援ネットワーク
- ・特定非営利活動法人 淀川助け合い
- ・特定非営利活動法人 キャンピズ
- ・特定非営利活動法人 児童虐待防止協会
- ・特定非営利活動法人 たんぼぼの丘
- ・藤井寺市朗読の会ひびき

【2部 プロジェクトの部】

- ・一般社団法人 OSAKAあかるクラブ
Osaka Great Santa Run 事務局

『さくら賞』（第5回）

- ・特定非営利活動法人 チャイルド・リソース・センター

第9回 (2015年)

【1部 団体の部】

- ・NPO法人 西淀川子どもセンター
- ・吹田子ども支援センター
- ・特定非営利活動法人 寝屋川あいの会
- ・NPO法人 農楽マッチ勉強会
- ・一般社団法人わいわい

【2部 プロジェクトの部】

- ・大阪子どもの貧困アクショングループ
- ・一般社団法人 大阪モノづくり観光推進協会
- ・特定非営利活動法人 吹田市音楽療法推進会
おんがく・さ〜くる・コスモス

『さくら賞』(第6回)

- ・認定特定非営利活動法人
大阪被害者支援アドボカシーセンター

第10回 (2016年)

【1部 地域貢献の部】

- ・特定非営利活動法人 関西国際交流団体協議会
- ・特定非営利活動法人
国際ビフレンダーズ大阪自殺防止センター
- ・特定非営利活動法人 すまいるセンター
- ・株式会社ユナイテッド・トゥモロー

【2部 ソーシャルビジネスの部】

- ・合同サービス配送有限会社
- ・認定特定非営利活動法人D×P
- ・株式会社ミライロ

『さくら賞』(第7回)

- ・ままちっち

第11回 (2017年)

【1部 地域貢献の部】

- ・特定非営利活動法人 ASUの会
- ・公益財団法人 梅ヶ枝中央きずな基金
- ・特定非営利活動法人
熊取こどもとおとなのネットワーク
- ・NPO法人 しぶたね

- ・特定非営利活動法人
スペシャルオリンピックス日本・大阪
- ・特定非営利活動法人
高槻子育て支援ネットワークティピー
- ・特定非営利活動法人 チャイルド・リソース・センター
- ・特定非営利活動法人 True Colors
- ・東日本大震災県外避難者西日本連絡会
(まるっと西日本)

【2部 ソーシャルビジネスの部】

- ・株式会社グランディーユ
 - ・株式会社シーアイ・パートナーズ
- ### 『さくら賞』(第8回)
- ・大阪でタンDEM自転車を楽しむ会



第12回 (2018年)

【1部 地域貢献の部】

- ・あべの不登校児、軽度発達障がい児支援グループ
「スペースゆう」
- ・特定非営利活動法人 CAPセンター・JAPAN
- ・特定非営利活動法人 子どもセンターぬっく
- ・にほんごサポートひまわり会

【2部 ソーシャルビジネスの部】

- ・マミーズアワーズプロジェクト

『さくら賞』(第9回)

- ・NPO法人弱視の子どもたちに絵本を

第13回 (2019年)

【1部 地域貢献の部】

- ・特定非営利活動法人
国際交流の会とよなか(TIFA)
- ・千里キャンドルロードプロジェクト
- ・ちまちま工房
- ・特定非営利活動法人 西成チャイルド・ケア・センター
- ・NPO法人にしよどにこネット
- ・箱の浦自治会まちづくり協議会

【2部 ソーシャルビジネスの部】

- ・認定NPO法人ノーベル
- ・株式会社ラヴィコーポレーション

『さくら賞』(第10回)

- ・特定非営利活動法人 日本こども支援協会
- ・特定非営利活動法人 ファザーリング・ジャパン関西

第14回 (2020年)

【1部 地域貢献の部】

- ・特定非営利活動法人 エスペランサ
- ・公益社団法人 こどものホスピスプロジェクト
- ・特定非営利活動法人 災害救援レスキューアシスト
- ・天神祭ごみゼロ大作戦実行委員会
- ・特定非営利活動法人 トイボックス
- ・特定非営利活動法人 南市岡地域活動協議会

【2部 ソーシャルビジネスの部】

- ・認定NPO法人 Homedoor
 - ・特定非営利活動法人 み・らいず
 - ・リタワークス株式会社
- ### 『さくら賞』(第11回)
- ・アンコールプロダクション
 - ・移動スーパーオオバ

各団体の紹介と団体ホームページへのアクセスは当金庫ホームページをご覧ください。

